

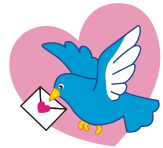
# 流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2009.1.25 NO.35



「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/> メール：[info@nagareyama9.org](mailto:info@nagareyama9.org)

## 2009 年を平和への飛躍の年に・

新年を迎え心から「あけましておめでとう」といえる人が世界でどれだけいるのでしょうか。残念ながら世界中が不安の中で新年を迎えました。国内では年末の派遣切りの非情、非道さ。国際的にはガザ地区でのイスラエルの想像を絶する無差別爆撃。そして未曾有の大不況。「アメリカ発の不況」「100年に一度の」などの言葉の中に何かしら「俺のせいじゃない」といわんばかりのニュアンスを感じざるを得ません。こうした世界的な先の見えない混乱のもとをたどれば、政治的にも経済的にも、日本の果たしてきた役割は極めて大きなものがあり、誤ったアメリカの単独主義を支えてきた最大の力の一つは日本です。

先行き不安だからこそオバマ氏に寄せる期待が否応なしに大きくなるのも当然かもしれません。しかし期待してその先行きをただ見守るだけではなく、真の世界平和への歩みを私たち自身が創り出していくときではないでしょうか。平和憲法を持つ私たちがその声を大きくしてこそ日本の姿勢を変え、アメリカを始めとした国際世論を大きく動かすことになるということに確信を持って私たちの活動を広めましょう。

### 定例駅頭宣伝

1月9日、おおたかの森駅で定例の宣伝を行いました。冷たい雨と風の中で少々厳しい日でしたが14名が参加。ポケットから手を出すのが億劫な陽気でしたが、受け取りはまずまず。300枚近くのチラシを配布。用意したチラシが少し心細くなるくらいで、寒い中でも受け取りがよければ寒さもどこかへ。

2月は 9日(月) 15:30~16:30

流山おおたかの森駅

少しの時間でも結構です。ご都合がございましたらご参加下さい

### 成人式の会場で新成人に訴え

1月11日(日) 流山市文化会館で成人式が行われました。九条の会では世話人以外の方も参加していただき6名でチラシの配布をして若者と付き合い(送迎?)の家族の方に訴えをしました。ご承知のとおり昨年流山市は駐車場の有料化を強行したため、ゲートが作られ出入りが制限されました。整理のため警察官も数名、会場整理員もいて駐車場の中での配布はダメと規制され、参加者の出入りも三々五々のため十分な宣伝ができませんでしたが、引き続き工夫したいと思います。

### 世話人紹介

土屋美代子さん(市野谷在住)

1年ほど前から参加させていただいています。前進と思う方向に、ちょっとだけでも歩きたいと思っています。よろしくお願ひします。究極の願ひは、「憲法の実現」です。

雉を眺めることに喜びを感じています。見られるポイントを御存知の方、教えてください。

山田洋子さん(野々下在住)

流山に移り住んで28年PTAから始まり、地域の仲間達と「教育・平和に関わる活動を続けています。

その間、世の中は良くなるどころか、時計の針が戻ったかのような痛ましいニュースばかりです。今、憲法9条を世界中の国が持てば、要らなくなる軍事費を「食料・薬・教育」等に使い、多くの世界の子供たちの命を救い、そして次世代へ、残された自然と平和を継ぐことができます。これからもその時々で、自分にできることを細く長く続けて行こうとの思いで世話人として野々下、長崎、古間木地区に「会」のニュースをお届けしています。

カンパ振込先 郵便口座 0013 5 464735

口座名 九条の会・流山

## 劇映画

# 「いのちの山河」 ～日本の青空～



タイトル最終決定

主演 長谷川初範(深澤農雄村長役)

ウルトラマン・南極物語・憲法はまだか など  
製作協力券(1000円)が届いています。

券の普及と上映運動にご協力いただける方、ご連絡下さい。

エキストラ募集 岩手県旧沢内村でロケ

村民たちの役 2月21日(でも遠いですね!)

## 与党 **なんとしても自衛隊派遣**

こんどはソマリアの海賊対策に

**なぜ自衛隊**麻生首相はソマリア沖の海賊対策に海上自衛隊の護衛艦を派遣することを決めました。名目は自衛隊法に基づく海上警備行動ということですが、与党内ばかりか浜田防衛大臣も含め現行法のまま海外で自衛隊が海上警備を行うことには疑問という声が多い中を強行。もともと海上警備・海賊対策などは海上保安庁の仕事であり実績もあります。これを無視して未経験で、しかも現地事情に不案内な自衛隊を急いで派遣するのは自衛隊の存在を誇示して、他国に伍して行こうとするもので、海外派遣を恒久化しようとするためものとしての批判をまぬかれません。

**問題点検討せず**麻生首相は新法制定の必要性を強調したうえで「海上警備行動で間に合うところは早急に対応すべきだ」と述べました。しかし派遣されればイラクと異なり明らかな「戦闘地域」で砲火を交えることになり、武器使用、外国軍隊との協力、犯人逮捕、殺害などさまざまな問題があり、現行法の枠を超えることは明らかで、その検討も待たず、「とりあえず」派遣はきわめて危険な行為です。

**何が求められている**ソマリアはイギリスやイタリアなどによる植民地化や氏族対立などに加えて冷戦時代の大国介入など複雑な事情が絡んで内戦が続き、政府も経済も崩壊し、職を失った漁民などが海賊行為をしていることも伝えられています。海賊の取締りと同時に再建のための国際援助が求められています。

## パレスチナとイスラエル

その対立の背景、解決の鍵は (その1)

阿部治正

### イスラエルのガザ攻撃

「自衛」は真っ赤なウソ



昨年末の27日にイスラエル軍は突如パレスチナのガザ地区への攻撃を開始した。年明けの3日には地上侵攻へと突き進み、国際社会の批判(12日には国連人権理事会すらイスラエルを「強く非難する」決議を多数決で採択している)も省みず、攻撃を強化し続けた。その結果、千数百名の死者、数千人の負傷者を出したが、その多くが子どもや女性たちであった。

この攻撃を、イスラエル外相も米国政府も、イスラム急進主義集団ハマスはロケット弾攻撃を阻止するための「正当な自衛行為」と述べている。しかしいつもはイスラエルや米国寄りの報道が目立つメディアも、今回の事態については、イスラエルがハマス幹部の暗殺を行うなどして先に停戦を破ったことを伝えた。そもそも昨年6月の停戦が成立する前から、イスラエルはガザ地区への大規模攻撃の計画を立てていたことも明らかにされている。

今度の紛争に先立つガザの現状は、イスラエルによる経済封鎖や分離壁建設によって巨大な“監獄”と化していた。水源を支配され、仕事を奪われ、食料や燃料や医薬品の供給を絶たれたガザ地区は、人口150万人のメガ・スラムに陥っていた。

イスラム主義集団ハマスはこうした状況を背景にして勢力を拡大していったが、イスラエルはこのハマスを叩き潰す必要があるとして、今度の軍事攻撃を仕掛けた。自らがイスラエルへの憎悪と反抗の原因をつくりだしていることはまったく顧みず、その反抗が気に入らないからと報復攻撃をしかけた。しかしハマスによるおもちゃのような手製ロケット弾に対し、その数千倍の破壊力を持ったハイテク兵器、そればかりか白リン弾などの「非人道兵器」まで繰り出して一般の民衆を殺戮する戦争を、「自衛行為」と強弁することは出来ない。